幼年教育研究年報　第29巻　65－71
The Annual Research on Early Childhood, 2007

世代間交流が幼児・高齢者に及ぼす影響に関する実証的研究

上村　眞生[1]・岡花祈一郎[1]・若林　紀乃[2]・松井　剛太[3]・七木田　敦[3]

Research on interaction of exchange of child and senior citizen

Masao Uemura[1], Kiichiro Okahana[1], Sumino Wakabayashi[2], Gota Matsui[3], Atsushi Nanakida[3]

The exchange activity of the infant and the senior citizen was emphasized in "Welfare vision of the 21st century" that had been published in 1994 in Japan. After that, the effect of the exchange activity was executed without being confirmed. Then, it was tried to clarify the effect of the exchange activity of the infant and the senior citizen in research. The investigation was done in the Shimokamagari compound welfare facilities. The method is observation of the exchange activity, questions parents of the infant, and is a questionnaire to the senior citizen. Consequently, it has been understood that the infant affirmatively experiences the exchange activity, and has acquired sympathy and high communications skill. And, it has been understood to speak the exchange with the senior citizen to the family happily. The subjective well-being inventory was investigated about the senior citizen. There was for better or worse no result the subjective well-being inventory of the senior citizen. As for the exchange activity of the infant and the senior citizen, the infant's having the positive influence became clear, and the tendency to the positive influence became clear from the result of this research for the senior citizen.

Key Words : Exchange of child and senior citizen, compound welfare facilities

問題の所在と研究の目的

わが国では、1994年の「21世紀福祉ビジョン」において、世代間交流の必要性が強調されて以降、子どもと高齢者の世代間交流の取り組みが盛んに行われてきた。その際、世代間交流には子ども・高齢者に相乗効果があることが暗黙の了解であるかのように認識されており、特に世代間交流が謳われ始めた当初は、その効果の具体的な検証は伴っていなかったといえる。その中で、幼児側に与える効果については、徐々に研究の蓄積が成されるようになってきた(關戸, 2002；竹内, 2001)。しかし、これらの研究では、世代間交流に関する研究の課題として君島(2001) が挙げるように、交流者の変容の検討や、効果評価の基準となる概念や尺度を検討するには至っていない。例えば、幼児に関しては、幼児の行動パターンに焦点が当てられ、交流活動の様が不明瞭であるし、高齢者においては、健康や心的状態に関する効果についても未だに研究の蓄積が見られないのが現状である。

そこで本研究では、幼児の保護者の意識調査結果と、高齢者の主観的健康度という側面から、幼児と高齢者の世代間交流における効果について検討を試みる。幼児の保護者を対象とする理由は、先述したように、これまで幼児側の効果について行動指標のみに注目されてきていることを踏まえ、家庭での発話や保護者の感想といった日常の幼児の様子に焦点を向けるためである。高齢者側の評価の視点としては、これまで

1　広島大学大学院
2　呉大学
3　広島大学

高齢者の健康といえば、いわば疾病の有無やその状況について表す客観的健康度が指されていたが、本研究では「健康は生きる目的ではなく、毎日の生活の資源である。健康は身体的な能力であると同時に、社会的・個人的資源であることを強調する積極的な概念である。」というWHOの考え方に立脚することとする。つまり、単に疾病がない状態のみを健康と捉えるのではなく、たとえ疾病や障害があっても、「充実した日常生活をおくり、自己の価値観を達成するための最適の状態」を健康とし、この主観的健康度が幼児との世代間交流を経験することでどのような状態にあるのかを評価の視点とする。また本研究では、幼児と高齢者の複合型施設を対象とする。その理由として、幼児と高齢者が日常的に交流を持つことが可能な環境が確保されているため、世代間交流の効果がより顕著に現れると考えられるためである。また、「富山型[4]」と呼ばれることもある（北村，2003）幼児と高齢者の複合型建築形態を有する施設は，社会的情勢から見ても今後増加していくと考えられることから，本研究における知見が今後の複合型施設のあり方に有益な示唆をもたらすことが予想されるためである。

方　法

ⅰ）調査対象

広島県呉市にある，保育所と老人介護施設が併設された下蒲刈複合福祉施設に通所する，高齢者９名及び保育所の年少以上の保護者22名を対象として，観察及び質問紙による調査を行った。

ⅱ）調査期間

2006年９月から2007年１月の間である。毎月の交流活動の観察と質問紙による調査を実施した。

ⅲ）調査内容

質問紙は，幼児に関する調査では22名，高齢者に関する調査では９名に配布し，いずれも回収率は100％であった。なお，機密性確保のため施設職員に配布・回収を依頼し，回収後は直ちにデータ入力を行い，その後は粉砕機により処理した。

○幼児に関する調査

交流活動に関する質問と，幼児の様子に関する質問から質問項目を構成した。交流活動に関する質問は，８つの活動（歌，手遊び，風船バレー，リースづくり，折り紙，うちわづくり，七夕の笹飾り，紙芝居）別に，まずＡ「家庭で話題になったかどうか」を①子どもから話題にした，②保護者が話題にした，③話題にならなかった，の３項目から選択してもらった。さらに，Ａの質問に対して，①，②を選択した保護者に，Ｂ「話題になった活動について，幼児がどのような感想を持っていたか」を５段階（１が最低点，５が最高点）で評定してもらった。幼児の様子に関する質問は，①交流活動がお子さんにとってよいと思うこと，悪いと思うことについて自由記述で尋ねた。

○高齢者に関する調査

QOLの指標であるSUBI（主観的健康度，WHO基準）を用いて高齢者の健康状態を評定した。記述が困難な高齢者に関しては，施設職員により聞き取り，記述をしてもらった。

○観察調査

毎月の交流活動を観察した。一回の観察は２名～３名で行われた。記録は施設側の許可をもらい，ビデオカメラ，デジタルカメラ，メモによって行った。

結果と考察

ⅰ）幼児に関する調査

交流活動に関する質問Ａについて，①子どもから話題にした（３点），②保護者が話題にした（１点），③話題にならなかった（０点）で得点化した（Table. 1 参照）。

歌	手遊び	風船バレー	リースづくり	折り紙	うちわづくり	七夕の笹飾り	紙芝居
27.0	26.0	19.0	13.0	30.0	18.0	31.0	15.0

Table. 1　活動別評定結果

得点化した結果，七夕の笹飾り，折り紙，歌，手遊びが得点高群，風船バレー，うちわづくり，紙芝居，リースづくりが得点低群になっている

4　富山県において，地域の主婦が幼児と高齢者の共同生活の場を作ったことに由来し，現在は特に富山県下において，保育所とデイケアの併設や児童館と特別養護老人ホームの併設など多様な形態の複合型施設の呼称として用いられている。いずれも個人による小規模経営のものを指し，補助金や認可について課題も残されている。

ことがわかった。得点高群の活動は，歌や手遊びなど幼児が高齢者に見てもらう要素の強いものが多い。一方で，得点低群は高齢者と共に作ったり活動するものが多く見られる。このことから，世代間交流活動において，子どもは高齢者と共に取り組む活動よりも，高齢者に披露する要素の強い活動のほうが印象に残りやすいことが示唆された。

だが，Table. 2 に見られるように活動が話題に上った場合は，すべてが 4 点以上と高い評定を得られており，活動を楽しんだ様子が話されていることが見受けられる。

歌	手遊び	風船バレー	リースづくり	折り紙	うちわづくり	七夕の笹飾り	紙芝居
4.09	4.17	4.22	4.33	4.08	4.13	4.3	4.43

Table. 2　B「話題になった活動についての子どもの感想」平均評定　（5点満点）

自由記述はいずれも肯定的な意見が多く，世代間交流活動が悪いという意見はなかった。自由記述からは，特に子どもの思いやりの気持ちが育つという意見が多く見られた。以下に代表的な回答を挙げる。

交流活動がお子さんにとってよいと思うことは何ですか？

やさしさ，善悪を自然に学ぶ
敬う，大切にする気持ち
思いやり，保育所の中にずっといるより楽しい
色んな経験を教えてもらうこと
知らなかったことを知るきっかけになる，思いやり
物を作る喜び，考える力
色んな人がいて色んな考え方があることを学ぶ
親では教えれないことが身につく，高齢者に親しみがもてる
多くのことを教えてもらえる，いたわる気持ち，優しい気持ち
色々な人達と接すること
人に対する思いやり，視野が広がる
視野が広がる，友達が増える
思いやり，やさしさ
優しい気持ち
思いやる気持ち

本調査結果から，下蒲刈保育所に通う幼児の保護者が世代間交流活動に満足している実態が明らかとなった。交流活動については，家庭でも話題に上ることが多く，幼児が楽しそうに話していることが示唆された。交流活動の内容については，幼児と高齢者が共に活動するものより，幼児は高齢者に見てもらう要素の強い活動を好むことが示唆された。高齢者は幼児の行動に受容的に接することが多いため，幼児は安心して活動を披露できることが考えられる。保護者の自由記述には，今後の活動について伝承遊び，陶芸，生け花，子どもたちに提案させてみるなどの意見も寄せられた。世代間交流活動の内容については，今後，幼児，高齢者にとっての活動の効果を配慮して考える必要がある。

ii）高齢者に関する調査結果

主観的健康度は，心の健康度と心の疲労度から構成されており，調査用紙の手順に沿って評定した。以下に，下蒲刈複合福祉施設に通所する高齢者の結果を示す（Table. 3 参照。）。

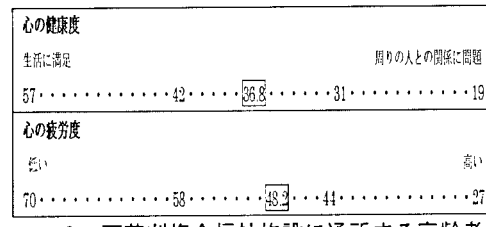

Table. 3　下蒲刈複合福祉施設に通所する高齢者の主観的健康度

SUBI評定表によると，心の健康度が42点以上の時は，非常に良好な状態であり，逆に31点未満であると心の健康度が損なわれている状態であるという。また，心の疲労度については，43点未満の時は注意が必要であり，58点以上であれば良好な状態であるという。この基準からすると，下蒲刈複合福祉施設に通所する高齢者の主観的健康度は，非常に良好な状態にあるわけではないが，特に問題を抱えているという状況でもないということが明らかとなった。下蒲刈複合福祉施設に通所する高齢者は，身体的な不自由さを抱える高齢者が多く，その点を考慮すると，今回の結果は非常に安定的な状態にあると考えることができる。

iii）観察結果

観察の中で特によく見られたのは，幼児が高齢者に気軽に語りかける場面であった。下蒲刈複合福祉施設に通所する幼児は，日常的に高齢者と交流する環境にあるためか，地域の高齢者にも普段から気軽に話しかけているという職員の話しもあり，その様子が見てとれた。また，折り紙の時などに手先が不自由な高齢者には進んで声をかけ手伝うといった様子も見られた。風船バレー等の競技性の高い活動については，活動に夢中になり高齢者に対する配慮というより，自身が楽しむということに没頭する様も見られた。高齢者側は，そのような姿が子どもら

しく映るのか，笑顔で見守っている様子であった。

一方で，高齢者側からは身体的な不自由さもあるせいか，自分の隣にいる子どもに対しても自分から積極的に関わろうとする様はあまり見られず，子ども達の反応を見ながら活動を共にしているようであった。しかし，表情は柔らかであり，子どもと共に活動することに対しては，楽しんでいる様が見てとれた。

総合考察

本研究の結果から，幼児にとって高齢者と関わることは，非常に肯定的に受け止められており，高齢者との日常的な交流は，他者への思いやり，コミュニケーションスキルの発達に寄与していることが示唆された。また，高齢者にとっても幼児との交流は楽しみとなっていることが観察より明らかとなった。世代間交流の結果が主観的健康度に寄与するという仮説は本研究では支持されなかったが，安定的な状態を保っていることから，今後の研究によって検証される可能性も示唆された。

以上のように，これまで世代間交流の効果として取り上げられてこなかった，幼児の日常的な発話や様子，高齢者の主観的健康度という側面から検討することで，特に幼児側には好影響があることが明らかとなった。高齢者側については，主観的健康度という指標による世代間交流の効果の検討という点については，今後の効果評価の指標として示唆を与えうるものであるだろうが，本研究では世代間交流による好影響は確認できなかった。この点については，ほとんどの活動が幼児側が主導をとる活動であったため，高齢者の主体性を引き出すことができず，積極的な効果を確認することができなかったと考えられる。

ともあれ，今後進行していくと予想される我が国の少子高齢社会において，幼児と高齢者の日常的な交流環境の有効性については明らかとなった。

今後の課題

本研究の結果で，世代間交流による高齢者の主観的健康度への好影響が確認されなかったことについて，高齢者側が主導をとる交流活動について検討する必要がある。さらに，交流活動を行っていない幼児と高齢者との比較も今後の課題として取り組む必要がある。

引用・参考文献

君島菜菜　2001　高齢者の世代間交流に関する先行研究の現状と交流を分類・整理する枠組みの検討．大正大学大学院研究論集．(25) 246～232

北村安樹子　2003　幼老複合施設における異世代交流の取り組み－福祉社会における幼老共生ケアの可能性－．第一生命経済研究所．http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/report/rp0308.pdf

關戸啓子　2002　複合型施設における高齢者とのふれあいが幼児にもたらす教育的意義．日本家政学会．447　vol. 53　No. 7

社団法人中小企業診断協会富山県支部　2005　富山型デイサービス実態調査報告書．http://www.j-smeca.or.jp/training/pdf16/toyama.pdf

竹内幸男　2001　幼児の思いやり行動に関する一研究（1）高齢者との触れ合いに視点をあてて．ヘルスサイエンス研究．5（1）37～41

謝　辞

本研究は，呉市企画部政策推進課様より助成をいただき，行うことができました。この場を借りて，感謝の意を表させていただきたいと思います。

また，調査へ快くご協力いただきました，下蒲刈複合福祉施設の職員の皆様，並びに関係者の方々にも合わせて御礼申し上げます。

資　料

－心の健康度に関する調査－

【1】施設における子どもたちとの交流活動についてお聞きします。以下の項目で最も適当だと

思うものに○をつけてください。
1，子どものたちの声を聞くとどのように感じますか。(嬉しくなる・気になる・耳障りに思う)
2，子どもとの交流は楽しいですか。(とても楽しい・普通・楽しくない)
3，もっと頻繁に子どもたちと交流活動をしたいと思いますか。(とてもそう思う・今のままでよい・したくない)
○今後，子どもたちとどのような交流活動をしてみたいですか。ご要望をご自由にお聞かせください。
【2】現在のあなたの状態についてお聞きします。以下の項目で最も適当だと思うものに○をつけてください。(27に関しては配偶者のおられない方，14，29に関してはお子さまがおられない方は回答なさらなくて結構です。)
1，あなたは，人生が面白いと思いますか。(非常にそう思う・ある程度はそう思う・あまりそうは思わない)
2，期待通りの生活水準や社会的地位を手に入れたいと思いますか。(非常にそう思う・ある程度はそう思う・あまりそうは思わない)
3，これまでどの程度成功したり出世したりしたと感じていますか。(非常にうまくいった・まあまあうまくいった・あまりうまくいっていない)
4，自分がやろうとしたことは普通やりとげていますか。(ほとんどやりとげている・ときどきできている・ほとんどできていない)
5，過去と比較して，現在の生活は(非常に幸せ・かなり幸せ・あまり幸せではない)。
6，全体的に見て，ここ数年自分がしてきたことについて，あなたはどの程度幸せに感じていますか。(非常に幸せ・かなり幸せ・あまり幸せではない)
7，物事が思ったように進まない場合でも，あなたはその状況に適切に対処できると思いますか。(ほとんどの場合できる・ときどきできる・ほとんどできない)
8，危機的な状況(ひどく困ったことなど)のとき，勇気を持って立ち向かい解決する自信がありますか。(非常に自信がある・ある程度自信がある・あまり自信はない)
9，今の調子でやっていけば，これから起きてくることにも対応できると思いますか。(非常に自信がある・ある程度自信がある・あまり自信はない)
10，自分がまわりと一体化していて，その一部になって動いているという所属感がありますか。(非常に強く感じる・ある程度は感じる・あまり感じない)
11，非常に強い幸福感を感じる瞬間がありますか。(非常に多い・ときどきある・ほとんどない)
12，自分が人類という大きな家族の一員だということに喜びを感じることがありますか。(非常に多い・ときどきある・ほとんどない)
13，非常事態(例えば，火事や盗難，地震など)が起きたときに，親戚や友達が助けてくれると思いますか。(強く確信している・ある程度確信している・あまり強くは思っていない。)
14，自分と自分の子どもとの関係についてどのように感じていますか。(非常に良い・かなり良い・あまり良くない)
15，自分が重い病気にかかったり事故にあったりしたときに，親戚や友達が世話をしてくれると思いますか。(強く確信している・ある程度確信している・そう強くは思っていない)
16，物事が期待通りにならないときには，すぐに動揺してしまいますか。(非常に簡単に動揺する・ある程度動揺する・あまり動揺しない)
17，理由もなく悲しい気持ちになることがありますか。(非常に多い・ある程度ある・あまりない)
18，敏感でイライラしやすいですか。(非常にそうだ・ある程度そうだ・あまりそうではない)
19，強い不安や緊張を感じて悩むことがありますか。(ほとんどいつも感じている・ときどき感じる・あまりそうではない)
20，ささいなことでかんしゃくを起こすことがあるのが自分の問題だと思いますか。(非常にそう思う・ある程度そう思う・あまり思わない)
21，自分の問題を解決するのに，家族が助けになると思いますか。(非常にそう思う・ある程度そう思う・あまり思わない)
22，あなたの家族は一体感が強いと思いますか。(非常にそう思う・ある程度そう思う・あまりそうは思わない)
23，自分が重い病気にかかったとしたら，家族はよく世話をしてくれると思いますか。(非常にそう思う・ある程度そう思う・あまりそうは思わない)
24，自分の人生は退屈だとか面白くないと感じ

ていますか。(非常に強く感じている・ある程度感じている・あまり感じていない)
25，将来のことが心配ですか。(非常に心配・ある程度心配・あまり心配はない)
26，自分の人生には意味がないと感じていますか。(非常に強く感じている・ある程度感じている・あまり感じていない)
27，あなたの配偶者（夫あるいは妻）との関係について心配することがありますか。(非常に心配・ある程度心配・あまり心配はない)
28，自分が必要とすれば友達や親戚が助けてくれると思いますか。(非常にそう思う・ある程度そう思う・あまりそうは思わない)
29，自分と自分の子どもとの関係について心配することがありますか。(非常に心配・ある程度心配・あまり心配ない)
30，自分はささいなことに対して必要以上に動揺すると思いますか。(非常にそう思う・ある程度そう思う・あまりそうは思わない)
31，批判されるとすぐに動揺しますか。(ほとんどそうだ・ときどきそうだ・あまり動揺しない)
32，今以上に多くの友達が欲しいと思っていますか。(非常に強く思っている・ある程度そう思っている・あまりそう思わない)
33，本当に親しい友達と会えなくなって寂しいと感じることがありますか。(非常によくそう思う・ときどきそう思う・あまり思わない)
34，自分の健康のことを心配することがありますか。(非常に心配する・ある程度心配になる・あまり心配にならない)
35，体のいろいろな部分が痛みますか。(ほとんどいつも痛む・ときどき痛む・あまり痛くなることはない)
36，胸の鼓動（こどう）や動悸（どうき）のために困っていますか。(ほとんどいつもそうだ・ときどきそうだ・ほとんどそういうことはない)
37，ひどくめまいがして困っていますか。(ほとんどいつもそうだ・ときどきそうだ・ほとんどそういうことはない)
38，非常に疲れやすいですか。(ほとんどいつもそうだ・ときどきそうだ・ほとんどそういうことはない)
39，不眠のために困っていますか。(ほとんどいつもそうだ・ときどきそうだ・ほとんどそういうことはない)
40，他の人たちと仲良く付き合えないために悩むことがありますか。(ほとんどいつもそうだ・ときどきそうだ・ほとんどそういうことはない)

ー交流活動に関する保護者へのアンケートー

今年度実施した高齢者との交流活動がどの程度，お子さんの興味や関心をひいているのか，お聞きしたいと思います。

A　活動がご家庭で話題になったかどうか

B　話題になった活動について，お子さんがどのような感想を持っていたか，（Aで①，②に○印をつけた方のみ回答）お聞きします。それぞれ当てはまる項目，場所に○印をご記入ください。

1．ご家庭に関する質問

1）ご自宅に高齢者はいらっしゃいますか
（いる　・　いない）

2）保育所以外でお子さんが高齢者と接する機会はありますか
（毎日　・　週5～6回　・　週3～4回　・　週1～2回　・　ほとんどない）

3）お子さんは高齢者となにをしていることが多いですか（自由記述）

2．交流活動に関する質問

1）一緒に歌をうたったこと
A（①子どもから話題にした　②保護者が話題にした　③話題にならなかった）
B

2）一緒に手遊びをしたこと
A（①子どもから話題にした　②保護者が話題にした　③話題にならなかった）
B

3）一緒に風船バレーをしたこと
A（①子どもから話題にした　②保護者が話題にした　③話題にならなかった）
B

4）一緒にリースづくりをしたこと
A（①子どもから話題にした　②保護者が話題にした　③話題にならなかった）
B

5）一緒に折り紙をしたこと
A（①子どもから話題にした　②保護者が話題にした　③話題にならなかった）
B

6）一緒にうちわづくりをしたこと
A（①子どもから話題にした　②保護者が話題にした　③話題にならなかった）
B

7）一緒に七夕の笹飾りをしたこと
　A（①子どもから話題にした　　②保護者が話題にした　　③話題にならなかった）
B
8）一緒に紙芝居をしたこと
　A（①子どもから話題にした　　②保護者が話題にした　　③話題にならなかった）
B
9）他にどのような活動をしてほしいですか？理由も合わせてお書き下さい。（自由記述）
2．お子さんの様子に関する質問（自由記述）
1）交流活動がお子さんにとってよいと思うことは何ですか？
2）交流活動がお子さんにとってよくないと思うことは何ですか？